令和７年６月
NO.266

FAS住まい新聞

発行責任者
㈱福地建装
北斗市中野通 324
Tel 0138-73-5558
fax 0138-73-8460

◇ 一次エネルギー消費量等級に新基準「等級７・８」を審議 ◇

新築住宅を計画の方は、その「省エネ性能」を熟知している人は少数です。光熱費の高騰や環境問題への関心の高まりで、住まいのエネルギー効率はますます重要になってきました。

先日、住宅の省エネ性能を示す重要な指標の「一次エネルギー消費量等級」には、「等級７」と「等級８」が、新しく追加される方針であることが発表となりました。

これから家づくりをされる方は、この新しい等級が何を意味し、私たちの住まい選びにどのような影響を与えるかを知る必要があります。

◇ 「一次エネルギー消費量等級」とは ◇

まず、「一次エネルギー消費量等級」とは何かについてご説明します。

簡単に言うと、「その家が１年間にどれだけのエネルギーを使うか」を示す指標です。

具体的には、冷暖房・換気・照明・給湯といった、私たちが日常生活を送るうえで必要なエネルギー量を数値化し、国が定めた基準値と比較して、どれだけ少ないかによって評価されます。

等級の数字が大きいほどエネルギー消費量が少なく、「省エネ性能の高い住宅」であると評価されます。

さらに、この数値化されたエネルギー消費量に対して、屋根などに設置した太陽光発電システムでつくったエネルギーを差し引くことで、年間のエネルギー消費量を実質ゼロにする住宅が「ZEH（ゼッチ：ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス）」と呼ばれます。

（※現在、ZEH として認定されるためには「断熱等級５」および「一次エネルギー消費量等級６」を満たす必要があります。）

住宅の断熱性能は、断熱材の熱を通しにくい性質（＝熱伝導率の低さ）と、使用する断熱材の厚みによって決まります。

また、住宅の中で最も熱が出入りしやすいとされる開口部（特に窓）には、複層ガラス（ペアガラス）や三層ガラス（トリプルガラス）、さらには Low-E（低放射）ガラスといった高性能な製品が使われます。

◇ 高性能住宅を建てるメリットとは ◇

①光熱費の大幅な削減

エネルギー消費量が少ないため、毎月の冷暖房費や給湯費などを大きく抑えることができます。特に近年のエネルギー価格の上昇を考えると、長期的に見て大きな経済的メリットとなります。

②快適な室内環境

高い断熱性能や気密性能を持つため、夏は涼しく冬は暖かい、１年を通して快適な室温を保ちやすくなります。

部屋ごとの温度差も少なくなり、ヒートショックのリスクも軽減できます。

③環境への貢献

エネルギー消費を抑えることは、CO2 排出量の削減に直結し、地球温暖化防止に貢献することになります。

未来世代のため、環境に優しい住まいを選ぶことは大きな意義があります。

④住宅の試算価値向上

省エネ性能の高い住宅は、将来的に売却や賃貸に出す際にも有利になる可能性があります。政府の推進する省エネ基準に適合していることは、その住宅の付加価値を高める要素となります。

◇ 家づくりで気をつけることは ◇

①初期コスト

高性能な断熱材や窓、高効率な設備などを導入するため、建築時の初期コストは、従来の住宅よりも高くなる傾向があります。しかし、上述の通り光熱費の削減効果で長期的に見れば回収できる可能性が高く、快適性や健康面でのメリットも考慮に入れると、十分に検討する価値があります。

②設計・施工の重要性

高い省エネ性能を実現するには、緻密な設計、確かな施工技術は必須です。実績のある設計事務所や工務店、ハウスメーカーを選び、しっかりとコミュニケーションを取りながら進めることが重要となります。

③情報収集と比較検討

新しい基準や技術は日々進化しています。住宅展示場にも足を運び、専門家の意見を聴くなど、最新の情報を収集しつつも、ご自身のライフスタイルや生涯資産として最適な選択をすべきです。

将来の光熱費、健康、快適性、そして地球環境への貢献など、長期的な視点を持つとファース工法も含む、高性能住宅を検討してみてください。

（著・事業推進本部　冨田武美）